

令和4年度熊野古道協働会議・第4回分科会 発言要旨 (R5.2.6)

※案内等表記のルールづくりのグループは3回目の開催

*事務局において、意見交換での発言要旨を検討ポイントごとにまとめました。「○印」は参加者からの意見、「●印」はその意見をふまえた意見交換・質疑応答のまとめです。

第1部 (Aグループ) 持続可能な保全体制づくり (10時～12時)

【三重県 熊野参詣道 保全マニュアル】

- 保全マニュアルには、世界遺産の基本的な説明事項が記載されている。熊野参詣道は、国の史跡に指定されているプロパティ（コア・ゾーン）と、その緩衝地帯であるバッファ・ゾーンが世界遺産の登録範囲である。プロパティは文化財保護法で規定されており、バッファ・ゾーンは関連する法律・条令で保護されている。また、プロパティの参詣道で保全活動する際に許可が必要かなどについて、Q&Aがあるので参考にしてもらいたい。
- 保全マニュアルを確認して、これを基に保全活動を進めていけばよいと分かった。市町とも協力して進めていければ、保全活動の共通認識ができると思う。
- 保全マニュアルに書いてあることは理解できるが、土木系はまったくの素人なので、作業する際は現場で指導してもらいたい。市に問い合わせた時に、教育委員会から土木関係課につないでもらい、石畳の階段を整備したことがあった。
- 保全マニュアルだけで完結するわけではないので、市町や県の教育委員会に問い合わせてもらえれば対応できる。
- 保全マニュアルは世界遺産を対象としているため、厳しめのマニュアルとなっている。開発が行われると国の史跡指定に影響する可能性もあるので、世界遺産でない峠もこれに準じて作業すればよいと思う。
- 未登録区間については、道の状態を改変することによって史跡指定に影響があるといけないので、各市町と協力して、登録に向けて順調に進むようにしていきたい。

【熊野古道サポーターズクラブ】

- 古道は人が歩ける道幅があればよいと思っていたが、倒木や土砂、落枝落葉や草で覆われているところをもっと整備していきたい。

- 熊野古道サポーターズクラブで活動する前と後の写真を記録してある。参加者に見てもらったり、清掃前と比べてこんなにきれいになったと広報すれば有効だと思う。
- 草刈りや落ち葉の除去などの作業はボランティアが参加しやすく、体験したいという声もある。世界遺産の保全に関われるのは貴重な機会であり、インバウンドで体験料をもらえるかもしれない。
- 今年度のサポーターズクラブの活動はよかった。年度末に今年度の活動をまとめて、次回公表してほしい。

【伊勢路全体の保全を統括する組織】

- 保全団体の人が足りておらず、担い手確保をということで今年度から分科会が始まり、統括組織や世話人の議論が進んでいる。人員の多い保全団体に、世話人として統括して見てもらいたい。伊勢路全体を見るのは大変だと思うから、エリアごとに統括するのはどうか。エリア代表の人たちが伊勢路全体を見ていくとよいと思う。
- 紀北町4団体の実働人員は計24名で、増やすのは難しい状況であり、連合会を立ち上げることになった。町からPR活動に対する補助金があり、それを活用する。遠方との連携は難しいが、エリア内で協力して、来年度の発足に向けて準備している。
- いろんな形で資金集めを行っていくと思うが、あくまで保全のための資金なのか、活用資金も集めていくのか。資金の協力が得られるように、魅力的な商品を提案しないといけない。修学旅行への補助など、活用も含めた方が魅力的だと思う。
- 外部資金を集める際に、保全だけでなく、活用も使い道として提案すればよいのでは、というご意見だと思うが、保全を統括する組織の機能として担えないのではないか。保全を目的とする組織が活用資金も集めると、課題が発生すると思う。
- 保全の方が企業の反応はよいと思うが、保全と活用の抱き合わせで協力依頼すると効率的ということも考えられるので、統括組織の機能と活用の推進をどう切り分けるかについては、来年度以降にしっかり議論していきたい。
- 東紀州地域振興公社の補助金の財源は企業からの寄附金で、寄附内容は保全だけでなく活用も含まれており、看板や100m道標の設置支援、ガイドブック作成などにも充てている。「活用なくして保全なし」という言葉があるように、安全安心に歩いてもらえるよう早く行動した方がよいと思う。

- 以前は東紀州地域振興公社が事務局で、語り部友の会と保全団体の連携会議があった。そこで寄附金の使い道などを公表して議論していたが、そのような場はなくなったのか。
- 必要に応じて開催している。昨年からは熊野古道協働会議や分科会で意見交換する場があり、お互いの情報交換に繋がっている印象がある。
- 前回の分科会で、保全と活用の連携について発言があったが、語り部友の会としての保全活動はまだ足りないのではないか。両方に関係する者として、語り部友の会からも、より多くの方に保全活動に参加してもらえよう改革していきたい。
- 熊野古道との関わり方は人それぞれで、語り部として歴史を伝える人もいれば、保全活動している人もいる。さまざまな考え方があると思う。

【来年度の検討体制】

- 座長・副座長の3人は来年度も引き続き、中心となって議論していく。伊勢路全体で考えると、もう1人増員して、コアメンバーは5人体制がよいと思う。
- 特に北部はこれから世界遺産登録を目指すこともあり、やるべきことは山積しているのので、大台町や大紀町の保全団体から副座長としてお力添えいただきたい。
- 開催日は、一般の方も含めて多くの方が参加できる日がよいと思う。土日にイベントがある場合もあるが、平日・土日のどちらでもよい。
- 行政は平日の方が参加しやすいと思う。保全団体が出席する努力をすればよい。来年度も平日に開催することとし、副座長を1人増員して続けていきたい。

第2部 (Bグループ) 案内等表記のルールづくり (13時～15時)

事務局から資料3・4に沿って内容を説明

(資料3の補足説明)

・ガイドライン案について、関係者等への共有結果を報告させていただく。

【和歌山県観光振興課・奈良県ならの観光力向上課の意見】

・特段の意見なし

【環境省吉野熊野国立公園管理事務所の意見】

・特段の意見はなし

・ガイドライン案に関連して、関係者に共有してもらいたい事項がある。

①国立公園内に案内看板を設置する際には、個別に相談いただきたい。

②環境省では、吉野熊野国立公園管理計画の更新検討しているところ。

伊勢路のガイドライン案では対象外としている看板の形状や大きさも含めて、ルール化することになるかもしれない。その際には、関係県・市町等による協議会で検討する形になると思われるので協力願いたい。

【文化庁の意見】道標の赤白天板について、県教育委員会から事前相談

・特段の意見なし

【田辺市熊野ツーリズムビューロー】

・道標の赤白天板について、日本らしさ・熊野古道らしさを生かしたデザインの方がよいのではないか、違和感があるとの意見あり。

・この意見に対して、事務局からは、

①看板の機能として、歩く旅人を安全に誘導することが最も重要と考えた結果、看板の視認性向上等の工夫として、赤白天板のイメージ(必須項目ではない)をガイドラインに盛り込む方向で検討していること

②伊勢路独自の取組としてご理解いただきたいことを伝えている。

意見交換・質疑応答

(P 1 関係) ガイドラインの目的と位置付け

- 「外国人観光客」という表現だとターゲットが限定される印象がある。日本語に堪能な方もいるし、行程・滞在期間もさまざまなので、広い視野で捉えられるような表現にしてはどうか。
- いろいろな方をターゲットにするという視点では、誰でもどんな立場の方でも分かるようなユニバーサルデザインが大切。「ターゲット」は事務局と座長で案を検討して、副座長と決める形にさせていただきたい。
- 世界遺産ではないエリアやこれから活用していきたいと考えているエリアの案内看板についてもガイドラインの対象であると分かると、関係者が検討しやすくなると思う。
- 世界遺産のエリアに限らず、伊勢路全域をカバーするものなので、ご指摘の部分もフォローしていると考えている。
- ガイドライン案の1ページに「伊勢から熊野まで」というニュアンスを加えると、その考え方がより伝わるので、その方向で調整してもらいたい。

(P 6 関係) 案内看板の形状

- 今年度、尾鷲市では、ガイドライン案の3ページ「東紀州地域における道標整備の共通化」の「木製立て看板」のデザインで道標を整備しているが、今回のガイドライン案では形状等の統一化を考えているのか。
- ガイドライン案では、6ページ表下の※印に記載のとおり、案内看板の形状等のデザイン面は対象外と整理している。東紀州地域における道標整備の共通化の取組と今回のガイドラインが整合するようにはしており、ガイドラインの趣旨に沿う取組と認識。
なお、案内看板に表記する情報は、ガイドラインの対象となる。

(P 7 関係) 案内看板のイメージ【「熊野古道伊勢路」の表記場所】

- ガイドライン案の7ページに、道標のイラストがあるが、起終点の表記（伊勢と新宮）と矢印の間に、「熊野古道伊勢路」の表記を入れてはどうか。視覚的にも伊勢路との関連がわかるし、現在地の名称がない場合でも表記するスペースが確保できる。（複数の賛成意見あり）

- 「熊野古道伊勢路」の表記場所の変更について、この場で決めたい。
支柱に現在地の峠名等を入れる場合、その名称が長い場合に、支柱のスペースに収まり切らないことを懸念しての提案だと理解している。一方で、起終点の表記（伊勢と新宮）と矢印の間に、「熊野古道伊勢路」の表記を入れると、見た目が繁雑になる可能性もある。
- 「熊野古道伊勢路」の表記場所について、現状の案内看板の例に引っ張られていたところがあったが、伊勢路の認知や見やすさという観点からはご提案の形がよいと思う。
- 文字が連続しないように「伊勢 ← 熊野古道伊勢路 →新宮」といった表記の並びにしたり、簡易版では支柱に表記したりと、見やすさの観点もふまえて臨機応変に表記してもらえようようにしたい。

（P 7 関係）案内看板のイメージ【道標の赤白天板】

- 道標の赤白天板は、よい着地点を見出してもらったと思う。和歌山エリアにも伊勢路独自の取組として理解してもらえるとよい。

（P 9 関係）QRコードの活用

- QRコードで音声ガイドはできないのか。
- 技術的にはできる。案内する内容によって、個別に音声録りをしてQRコードに紐づけしたり、もしくは既存URLと音声アプリを組み合わせる等の手法があると思う。
- 音声ガイドができれば、ユニバーサルデザインではないが、いろんな方に使ってもらえる可能性があるかもしれない。

（P 10 関係）道標の表記に盛り込む内容【起終点と立寄り地点の表記】

- 起終点について、12月の分科会以降、終点の表記に「本宮」を追加すべきとの意見がなかったので「新宮」としているという理解でよいか。
- 花の窟神社あたりに「新宮」と「本宮」への分岐があるので、そこで終点の表記を切り替えることを想定している。（ガイドラインP10の*5参照）
- 道標のイラストで、上の案内表示板では起終点を、下の案内表示板では立寄り地点が掲載されている。上下2つ分の案内表示板を製作すると設置費用がかさむので、設置者の立場から考えると、箇所数を減らすことになるのではないかと懸念があるが、どのように考えているのか。

- ガイドライン案の10ページ「立て看板のイラスト」の枠に、標記を省略した簡易版を掲載しているとおり、案内表示面を2枚作ることは必須ではない。案内看板の形状は、このガイドラインではルール化しない。
- 簡易版のような表記方法でなくても、たとえば大きな案内表示面を用意して、起終点を省略せずに標記してもよいか。
- 案内看板の形状は設置者に委ねているので、盛り込む情報がガイドラインに沿っていればよい。

(P14 関係) 案内看板とマップ等の連動

- 案内看板とマップの連動が進むとよい。具体的には、案内看板の位置をマップに落とし込んで、マップを見ながら歩く旅人がそのポイントにきたときに、パッと現在地が分かるようになるとうい。
- 案内看板とマップの連動については、街中ではなくて、山中の分岐点等の間違えやすい場所(※)をイメージして、道迷いを減らしたいという考えで述べたものなので、念のため補足する。
 - (※) 八鬼山越え；明治道と江戸道の分岐点
 - 始神峠；明治道と江戸道の分岐点
 - 馬越峠；峠道と林道との合流地点
 - 荷坂峠；梅ヶ谷側の登り口手前の国道との交差点
- 案内看板の現地調査をする中で山歩きアプリのYAMAPを使っているが、とても便利。県の来年度事業では山歩きアプリを活用した取組を考えており、ご指摘の課題の解決につながれると思う。
- 今年度、東紀州地域振興公社では伊勢路踏破マップを作成していて、県等のマップとの整合もとっている。案内看板は、4km道標の位置をマップに落とし込んでいる。山歩きアプリも大切だが平地は対応していないので、東紀州地域振興公社では6か国語の自動翻訳が可能なGoogleマップの情報充実に注力している。
- 山歩きアプリのYAMAPは、峠だけではなく一般道にも対応しており、街中も含めて伊勢路全域のルートに対応できる。
- マップ、YAMAP、Google等のどのツールを使うかは利用者が選択する。まったく同じ内容で掲載する必要はないがそれぞれで連携をとっておくことが望ましい。

- 事務局を含めて関係者で可能ならば、地域の方から道迷いの情報を収集して、マップ、YAMAP、Google等のガイドに反映できるとよい。

(P15 関係) 周辺観光地との案内の共通化

- ロングトレイルを楽しむ方は、伊勢路だけでなく中辺路・小辺路を歩くことが多いので、例えば新宮エリアの案内看板に伊勢路の情報を載せてもらう等の働きかけをして広域連携できるとさらに歩きやすくなると思う。

(P15 関係) 案内看板の設置場所

- ガイドラインに沿った案内看板の設置場所、個数、時期等について、具体的な予定があれば教えてほしい。

- ガイドラインは、案内看板に表記する内容を中心に、伊勢路全域でのルール化を図るもの。この分科会は、案内看板整備の予算をもっていないので、整備時期や個数は、設置者となる市町、県等がそれぞれ検討することとなる。このため、案内看板の整備時期や個数等については、ガイドラインとは別に考える必要がある。

(その他) 県による案内看板整備の支援スキーム

- 県では、来年度から熊野古道の世界遺産登録20周年に向けた取組を進めていく予定。案内看板についても整備の支援スキームを考えているところなので共有させていただく。

(その他) ガイドラインの検討状況の共有

- 事務局の説明の中で、環境省において吉野熊野国立公園管理計画の更新が検討されている旨の情報共有があったところ。案内看板の色・素材についても議論される可能性があるので、事務局においては、熊野古道協働会議で決めたガイドラインの内容をしっかりと環境省に伝えてもらいたい。

(その他) 路面シート赤白目印設置の工夫と活用

- 路面シートは、道路と同系色だと見えづらくて気付きにくい。たとえば、御浜町では、道が分岐するところで、目立つように複数枚の路面シートを設置する等の工夫をしているので、参考になると思う。
- 案内看板をいくら充実させても、万全の体制にすることは難しいので、歩く旅人がマップ等の情報をオンラインで入手しやすいように工夫することも重要。

- 路面シートは、メンテナンスされていないと劣化して目立たなくなる。馬越峠から八鬼山越えに向かう街中の道は、ルートを外れていないか心配になるので、縁石あたりに何か目印があると安心すると思う。
- 路面シートは、交通量の多い場所には適さないと思う。たとえば尾鷲市街地の熊野古道沿いだと、歩道がなく車の交通量が多いので、路面シートを貼っても1ヶ月ももたないと思う。路面シートは、歩道や狭くて車が入れずカクカクしている矢浜道などに適していると思う。
- そのような街中の道が、赤白目印が活躍する場所。路面シートや赤白目印と案内看板をうまく組み合わせて、案内を充実させることが重要。県や市町においても赤白目印も含めてPRしてもらいたい。

(その他) のぼり旗の活用

- 伊勢路全域で案内看板を整えるには時間がかかると思うので、その間の対応としても、のぼり旗をうまく使ってもらいたい。
- 熊野古道の世界遺産登録20周年に向けて、県ではのぼり旗制作の予算要求をしているところ。予算化されれば、今回の意見交換もふまえて、デザイン等を検討したい。
- ヨーロッパではポールが湾曲している形状ののぼり旗が流行っているので、そういったところも参考にしてみようとい。
- のぼり旗のポール素材に擬竹を使っているケースもあったので参考にしてほしい。
- のぼり旗は長すぎるとポールに巻き付いて見栄えが悪くなってしまい、ポールのプラスチック部分が壊れてしまうことが多い。20周年に向けて、新たにのぼり旗を作ってもらえるなら、長さや形状を工夫してもらいたい。
- 関係者においては、新たにのぼり旗を制作する場合、この意見交換をふまえて、長さや形状を工夫してもらいたい。